未来に向けた取り組み
事業部紹介シリーズ ⑦

写真や図表で見る
全農のいま

園芸部

主な事業内容
- 実需者ニーズに基づく生産振興
- 卸売市場流通や直販を通じた販売事業
- 青果物流通のインフラ整備
- 業務効率の向上に向けた対応
- 適正価格形成や消費拡大への対応

国産青果物の未来に向けたJA全農の挑戦

2030年の目指す姿の実現に向け、JA全農園芸部門は❶国産青果物の生産量確保に向けた生産振興❷直接販売の拡大❸川上から川下までの青果物流通インフラの整備❹青果物業界全体の業務効率の向上❺消費拡大などに向けた取り組み―の五つの基本方針を策定しました。今回は、この基本方針に基づく取り組みを紹介します。

FILE 1
国産青果物の生産量確保へ

全農は、国産青果物の生産量確保に向け、❶オリジナルブランドのミニトマト「アンジェレ」の夏秋期の単収拡大に向けた研究会の設置による栽培指導力の強化❷国産ニーズの高いカボチャの付加価値を高めた商品化の取り組み❸果樹の省力栽培実証❹冷凍青果物工場へ原料野菜の安定供給に資する省力生産モデルの実証圃(ほ)設置―などにより生産振興を進めています。

アンジェレの圃場

FILE 2
冷凍青果物の国産推進

冷凍青果物の原料を輸入から国産へ置き換えることを目的に、冷凍青果物の製造・販売事業を開始しました。25年3月にJAグループの工場が製造した製品を保管・小分け包装・配送する第1リパック拠点が稼働。現在は、冷凍青果物工場の建設を進めており、26年4月の稼働開始を予定しています。

冷凍青果物のリパック拠点

FILE 3
青果物流通インフラの一貫整備

物流課題の対応として、県域をまたぐ広域ストックポイント(SP)やJA域をまたぐ県域SP、広域集出荷拠点の設置などにより効率的な物流体制の構築に取り組んでいます。また大手流通業者と連携し、集荷から実需者納品まで高機能冷蔵庫などを活用したコールドチェーンでつなぎ、定時・定量・定質での販売を構築する「青果プラットフォームセンター事業(PFC事業)」を推進しています。

茨城県坂東市に建設中のPFC茨城

FILE 4
青果業界の業務効率化

青果物流通における出荷情報を紙媒体からデータ化し、産地から卸売市場へ出荷データをリアルタイムに確認できる仕組みの構築を進めています。また、青果物流通現場の作業効率を高めるため、青果物の出荷規格の見直しの検討も開始しました。

FILE 5
適正価格の形成と消費拡大の推進

取引先と生産コストの実態を共有し、コストを考慮した取引の交渉を各県域で継続して行い、適正な価格形成の実現に向けた取り組みを進めています。また、交流サイト(SNS)などのメディアを活用し、情報発信や販売促進を通じて、消費者の消費拡大に向けた理解醸成活動にも取り組みます。

冷凍青果物の消費は拡大傾向ですが、輸入品が大半を占めています。国産品を製造する冷凍青果物工場は北海道や九州に多く、労働力や保管倉庫の不足などの課題があります。園芸部では、埼玉県久喜市に冷凍青果物のリパック拠点を設置し、2025年3月より本稼働しています。

JAグループの工場などと連携し事業インフラを整え、生産者が安心して生産し、消費者に安全安心な国産冷凍青果物を届けられるよう取り組んでいきます。

JA全農園芸部
加工業務直販課
吉田 京太郎さん
2014年入会。冷凍青果物の第1リパック拠点の立ち上げに関わり、現在は製造管理業務を行う。

全農 ZEN-NOH　JA全農事業ビジョン2030はこちら

次回は施設農住部
「農業施設総合コンサルで施設の運営改善を提案」9月1日(月)掲載予定